天地妙法感應録

188.94
I997t
W

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』 請求記号 188.94-I997t

ガラス使用

天地妙法感應録

序

大菩薩と称し奉る當幹義抄と云ふ御書の中に自画自賛と没けのひく妙法蓮花経と云ふ題目の下に

御本尊ハ千界依正即妙法蓮華経躰也

高祖入滅の後人皇九十九代後光厳帝の勅に依りく

問若尓ハ如我等一切衆生モ妙法全躰ト可云ヤ否ト答勿論也

其御書に大地の間に有とある何物ぞと問ひ奉れば

の當幹と答ふ此妙法蓮花経を次の間に掛ふ家宝なれまて

妙法蓮花経の両神と云ふ事を思ひ奉る妙法蓮花経信ずる者かくの

ごとく見て時を天地の写

188.94
I997t

国立国会
25.3.31
図書館

112525

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t

ガラス使用

有るべきあらゆる事柄等像いうべき
思ふべきなどいへる妙法蓮華経の
天と赤い水火木金土の五行と
も名ばかりなるものゆえ思ひ
ふたつの位やうの位や既に孔子の
間に差へのごとく大水木金土の五行い天の五帝と差へぬひ
おてぞ有べき道信ずるものい信ずる
あらん御経白蓮師の例の偏固にくもおとらに聖
可笑しき迄と云人今世にい多く
経の有ずる号ぬるを始に今此妙法蓮華
いうぞや眠あらん程の人い及ぶ
号信せずんやい称天に妙
中にかくのごとき地より黄道帯を
のごとく度数交代のい陰陽
廿四気七十二候めぐりさる号施
ずるに雲記り雲多り風吹
の書にも載さる理り論じたる事あり迄

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t　　ガラス使用

石觀音經をとなふるもの、人々といへども其家庭の地に妙なる
しるしの地も亦妙なる有様を法華経にとかるゝ
現前にみだるゝ事のあつて習にいまだきかず馬に角牛に鬚(メヒカミ)有
ごとし。形ばかり妻と称し一室に住せども他人の如く稍(やや)もすれば
離別の五戒を破る事多きのみならず天地の妙法自然に冥合(ミヤウガフ)して
いふ必定地ゆたかに成就する妙法慶(よろこび)に並び行ずるの志なきが
如し天地の妙法自然に冥合して顕貧(ケンビン)倫(ヒト)なきを
なげかはしき事なり宣しく不信なるものを責めの化育甚宣しく不信なるものを責め

ば化育甚宣しく不信なるものを責めて
悔改むるにおゐては天地妙法の大恩恵に依て
我が天地の間に悔改むるを云べし聖人の尚書
に云く天地萬物の父母と云ふも人々なれば此天地と法の使ひ
行ひのふれぞめ若其規則をみだりがはしくば忽ちに天地を
人ぶいうでう萬物の父母と称するなれや故に
天地に不順の事行はれ風災震災(いふしん)瘟疫(うんえき)などの害ありて
ふ萬の化育甚宣しく不信なるものに天地降罰の事為

まいあるべし詳に醫書を
男女之正ハ天地之大義也ト云ヘリ
禮記曰天地之道寒暑不時則疾風雨不節朋鑑云易象曰
亦人に妙あるもの
くいそで史婦交て妊氣胎
包み毛髪生じ十二根五臓六腑備そ
そる爪ふたつる脚の験と中にし胎
寒し月の満ちてうぶ乳
なる乳房四肢具はりぬ
る脳を不の食祿うして人分の
まか生物当年のうまさうぶ
禮記曰天地之道寒暑不時則
疾風雨不節朋鑑云易象曰
亦人に妙あるもの
くいそで史婦交て妊氣胎
包み毛髪生じ十二根五臓六腑備そ
そる爪ふたつる脚の験と中にし胎
寒し月の満ちてうぶ乳
なる乳房四肢具はりぬ
る脳を不の食祿うして人分の
まか生物当年のうまさうぶ

112525

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

法〳〵云よりてんぢそれもをくわするべし（ママ）
に当ては（ママ）く賤と称し士農工商各その（ママ）の法有て異
ば犯事あるさゞる事なれどもたゞ有るべき事にもさゞる
犯せるものゝ心ばへなりく国名よく治るもの一人
法則世法也今の仏人のごとに妙と法の体裁なる
天地の如く法ると参りて一即法と称るにて天地妙法

異宣化不ばるをいふなり（ママ）化育の徳ばかりにて天地化
ばさるゞ高祖大聖人の如説修行ばといへる書に万民
一同に南無妙法蓮華経と唱る時いたゞ風枝ばかり
さび雨堤を碎ずに義農の代のごとくるふんと宣ひし
実に〳〵ばかりなるのみならず天地化育の徳において服あ
らんとの（ママ）ねがひなり（ママ）ん（ママ）よの（ママ）報ずべき事ばかりなり（ママ）ん（ママ）
等ひく報ずべきやう（ママ）ま（ママ）たいまだ（ママ）
死をいそぐべきにもく（ママ）ばず一身の当躰（ママ）不揃天地妙法の神

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t　　ガラス使用

なせば必定殿黙刑罰の果有違酒の因なるをせめて諸虚内損の果あり奢侈(シヤシ)貧乏(ヒンボウ)の果あり破財破産の果あり招くところ皆これ因果と云ふべし我に因果と云ふ仏教の親疎なきをもて知べし

○花厳経三七日 阿含経十二年 方等経十六年 般若経二十二年 法華経八年 涅槃経一日夜 是を五味四十余年の四味の方便と云

故に因果俱時(トモニスルヲイフ)と判じ三世因果と説て不作の善悪ようやく因果を感ずるが如し是仏教の規範一切経の通論也その上人のよしあしおろかなるのみ萬物のよろづ皆因果を免るゝ事なし況や人倫に於ておや

古人因果俱時と判じ三世因果と云ふ

不作の善悪ようやく因果を感ずるが如し是仏教の規範一切経の通論也その上人のよしあしおろかなるのみ萬物のよろづ皆因果を免るゝ事なし況や人倫に於ておや

○因果と観て花厳経十二年 方等経十六年 般若経二十二年 法華経八年 涅槃経一日夜 是を五味四十余年の四味の方便と云

故に因果と云仏教の親疎なきをもて知べし我に因果と云ふ仏教の規範なきをもて知べし

破財破産の果有招くところ皆これ因果と観て花厳経十二年 方等経十六年 般若経二十二年 法華経八年 涅槃経一日夜 是を五味四十余年の四味の方便と云

奢侈(シヤシ)貧乏(ヒンボウ)の果あり

諸虚内損の果あり奢侈(シヤシ)貧乏(ヒンボウ)の果あり破財破産の果有招くところ皆これ因果と観て花厳経十二年 方等経十六年 般若経二十二年 法華経八年 涅槃経一日夜 是を五味四十余年の四味の方便と云

なせば必定殿黙刑罰の果有違酒の因なるをせめて諸虚内損の果あり奢侈(シヤシ)貧乏(ヒンボウ)の果あり破財破産の果有招くところ皆これ因果と観て花厳経十二年 方等経十六年 般若経二十二年 法華経八年 涅槃経一日夜 是を五味四十余年の四味の方便と云

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』 請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

歟も有可同一愛敬心ならん人にも
もとづく山林巌谷もでにくき
妙法の蓮華あるべき即肉即是天地自然の
用ゐるいはれ花のいろ香のめでらるべきに人もまぬ山
法に咲也有ゑしく義果なる顕し花未といへる也。
芸物あんなもとゝろ賓容の設けに用ゐるべく愛
歌をよく芸あり亦不浄の為和らかく常に心ざし
よのにおもしろくいとなる芸あるべき事不浄
の芸ゝなり用ゐるべき相当をとるの真功尚大にも

いと浅るものぞ法華経の信解品に庵汝除糞(ニヨチヨフン)
除糞之為も糞去塵垢(ヂンボク)とも説(トク)テ和る糞の字さへ敬
こゝろある古人の歌も法華経の一この文字に是をこの佛心備
ハ法ゐ説く完せ利益ゐ釋を利益
譬喩妙法蓮華経薩達摩芬陀梨伽藭多覧一呋
八軸四品六萬九千三八四一ゝ文ゝ是真佛真佛説法利
衆生衆生皆已成佛道故我頂禮法華経ト云云
枚無説法ゐるもの高座ばかりゝ深義をる仏説法
とゝろ〳〵古人いへる事あり天道不言ゝ四時行通

等相育そだてあひ白と夜との天道の御法のごとく
能く行ぜずして法華経の
天地の妙法のうみ也
くうそく尊き世そうあり亦貧や家内
の土の内に塗籠(ぬりこめ)ても人の知らざる
るものぞ況や外々ふみ(舞)らまでも
なんぐい家なれ保ち童も品もまでく年経る床下の材木
るきいいとあそれもぬくかる
能くうそうて妙法の心も
蓮華も臭くして即同品

を顕を事なく感ぐるなり亦立教ふる中に且く某
てふよのいわゆるもの一切衆生なる
時に捨ても竟に天地化生
ろくく朽腐(くさ)るを見るに能く是みな
天地妙法の神異ううみ心
同果なぬの通かく能く行ずる
大聖孔子の用いも通のうに顔回
の右近のみ記是とび只天命
善に福溢に禍をてう云

の天道という言葉のような道理を知る善に福し淫に禍しのごとく
らを天道の命じのごとく云がごとくこのごとく既に孔子よも大聖仏
るがごとくならず五十而知天命と宣へり是ぃ先生の道仏孔
子の五世に於いてあるべきことを千章百号のごとく用ゐ
今ごとく仏道に於ても同じくおいてもまた先生の道仏後世に伝へ
遺言のごとく天台の御弘通するに大聖仏
しのごとく五十の御年始ごとく
後ごとくいつでも当もごとく天命仏
疾病石のごとくおいても先生の
ごとく仏道に於ても同じくおいてもまた先生の道仏後世に伝へ
遺言のごとく天台の御弘通するに大聖仏
しのごとく五十の御年始ごとく
後ごとくいつでも当もごとく天命仏
疾病石のごとくおいても先生の

釈尊天地妙法の神呪の心しも蓮華仏具しく同果倶
時と云る仏あり之ら迹たくわ長次仏後ぶけ当るい今と
仏挙ぐ本の妙法蓮華と云わい天地の経と云事仏く高祖
大聖の御宿る三世常恒なる仏
開顕仏りしもうこの義当
もるの本地を経と云るものなし
歳阿含方等般若く若干の
うども一つもし天地の経にうべ
く説のごとく無量義経より来りて四十仏年来歴寒く

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

仰ぎ迎えて安置し奉り、供養し奉りて、
御に天地の妙法にそなえそうろうまま蓮華の経に無始の
智事なれば天地自然の経にて無始無終なよ
法華経薬王品に我滅度後、経
於閻浮提、無令断絶と説のごとく後の五百歳と云、釈
導入滅一のごとく後の千年のうち
過ぐる無次の年の号仏像法と
ぐる無次の年より仏法像法計り
百歳り後末法に入ると云、然法に入ると初の
のごとく御に釈尊入滅以後像

二千年過ぐる末法の始め百七十四年にあたり人王八十五代後
堀河院御宇貞應元年二月十六日祖師日蓮大聖
人吾大日本国に降誕ましまし末法に入り二百余年
ぶ後深草院の御宇建長五年癸丑始めて宗旨を建立
のひ王後佐渡国配流の内未法に入り二百二十二年あたる
文永十年癸酉より始めて常音の如く菩薩のごとく宗旨の
云書一巻を十界総法の大曼荼羅を図顕し奉る
和尚とこの上に挙たる薬王品の経文後五百歳の仏
の金言と高祖の御出世を勘へ合せ候事も過ぎぬる年号指がた

是仏説くべき時い次下の於爾法捉ニ至今断絶の経文無のゞ
うゞそんや爾法捉くい娑婆界の学ゝ妙法蓮華経を
天地の経(一)今迄い娑婆世界に断絶をゞるの(け)実に理り
なるものゝ仲尼のお経を説のみ中にそ迚も天の経ゝ
地の誼ゝ民の行ゝ天地の経のゝ民ゝ迚則之と宣ゝい處
も大和の者も今も天子の当代も廃人の輩ゝ孔も父母ゝきの
ゐなく父母ゝと宣ざるのかゝへ仏ゝ一世(一)ゝ春遍ねゞ天地の
経ゝい宣ひゝ孔ゝ天ゝ地ゝい孝ゝ迚ゝ親ゝて
仏道理ゞ迚ゝ迚ゝの人ゝ為ゝ王ゝ親ゝ目ゝ為ゝて

教子ゝ愛も迚ゝの為ゝ天地神明ゝ為ゝ
ゞ(モテアソビ)ゞ迚ゝ親ゝたる天地神明ゝ為ゝ
ゞるゝ父母ゝの恩沢をうゝふひるゝあたゞざるゝの教ゝ
るゝ父母ゝたるゝの具子ゝ愛にゝ(ヨロコビ)ゝ迚ゝ親ゝ為ゝ
の涙ゝ為ゝ仏神ゝ為ゝ迚ゝ歓ゝ為ゝ
或ゝ衣服ゝ美ゝ為ゝ饒ゝるゝ(モテアソビ)ゞ教ゝ
費ゝ一切ゝ生ゝ為ゝ
徳ゝ施ゝ
ゝ
ゝ
地神ゝ

らびて自然の冥罰を被るべし仏道現世を祐ける事
忍辱信ずる信ずべし易曰男女正しく天地大義也といへり是に
同ずる時は貴賤ともに荒淫の風儀行レ閨門の回禄
さまたぐ天地の大義ばそむるがしやうに天地の大義ばそむるがしやうに
別生ず化育の徳ばそむるがしやうに可忘此内典外典の道
理を勤め合ず護法とかうる人なし天道も働ば忘恩者ゆへ
いかゞ妙法蓮華経の恩ばわすれ人ぞ名ばかりの恩とや
ばわすれといひ世間ばかりの報恩と等しく忘恩者ゆへ報恩
恩報恩のみぞ而後天地に参ずる一切法に冥合ずし信に

はるの三才といへる紀ず高祖大聖人の開目書に曰外典の
三千餘巻の所詮に二つあり所謂孝と忠とも又孝の
家より出ずり忠ず中に高也天高しといへ共孝ずりい高かしし
又父に厚母に厚ずといへ共聖賢二類
孝、家より出ずり況や仏法ず學ばん人智慧勝ずべしや
下巻開目書
古人も内典の孝経と行ずれ仲尼の孝経ば説ずのしも
中に天地の此人ず為貴人の行ず孝よう大なるいまし宣
ひしく父母よく人なる道ず教ずのしも王法切着明なる

子多病ヒとくも天地の父母みたてまつりなり妙法神呪の事ハ
伝ハるの道ヒ憑(カクシ)ヨ霊(ヒ)のふ(リン)ことよりも現生の父母こものへなる
ら道ハ易(イイ)ふべく軽(ケイ)易の易ひなるハ人ぞ世に多ハ其
誤の始のハいそで仲尼(カロリヤスリ)の孝経ハ説のひ初章に身體
髪膚受之於父母敢而不毀傷有孝之始也ト云ヘル経旨とハ
孔安国の解せらも)とて~不毀傷ハ軽易の想ひ
~誤とよ~今の世人多く孝道に
刑傷とさへ免もかた孝道の始ハ既こるとハ
ものぞ世に多ク大寧氏も孝経の席に忠臣貞婦と打

用ふ~刑傷の義を資(タスケ)んとせ~もつぱら王納に而
ふせぎ孝大ひ祢君の難に赴くるあるべして自死と陥
み血氣の勇にハ与ざる旨ハ不正の行を勿~身體
毀傷~ハ孝の始ト言ハる父母をして
悲歎に沈ま~ん是よりも~不孝不善の名ハ貽を人刑傷ハ
いくぞや也世おとい多ハそ
同一芸義の為に髪を截(キリ)鼻ハ
いたゞ旨べるる事也)ハ毀傷の名ハ被

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』 請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

らーめく不安のこよのさていそんや増るに不安の行状なして緊張は如何程甚だそが（ママ）或は自ら死に及ぶ汚名な千載に貽し（ママ）砲を大恩ある父母の法（ママ）心安たなくく思ひ乍ら如何ともよの世にいくぐる可べし是みな父母たるものの愛子の道を不知して私の感愛が如何が汚にそ通にな通たるしみ迷ると竟よ奉遍ないろねぼるし天地の神実たる妙法の父母にそくなるの心ごのの未だ著（ママ）者ず先天地の私ら記御恩ありよくなる（ママ）し家一己の父母まてくなる

ものから吾が此一身近くの父母の遺体をいそ天地の神実妙法蓮華経の徳なるものぞと信ずるの故に吾此身體を実記すはそに類しなきよのにして死に恐怖（ソコナイヤウルスイ）危ふ（ママ）の不潔（フケツ）の地（トコ）に容（ママ）くく自ら労働（ママ）して孔夫子の説い者遍にも合當（ふつつ）かんなくさる孔子の上ふよく知ろく而後他のをべ記事をも此実吾身のよ人間の人也をを父母こそ実なる父母な称主川天地神実妙法蓮花経の徳にかふくい家と人と交に実ありてもの記よが衣にか心高貴（たか）差実（ママ）よりも人も多の長くの如草ぬ

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』 請求記号 188.94-I997t
ガラス使用

万物の霊長と称する事をはづる。
也。人形ちがふ事のみならず、天地の神妙にあんぐう。
考事有。此理をしらず、何がみたり。万物は残害
する。獣の楽みとする所を服とせんや。漢
楓ばしをみる。薪葉をもつてよく父母に仕る。
挙がごとく。尚書に天地は万物の父母とあつて。万
物は天地の御子なる事はいふ迄もなく。此故に天地の御なるる事は
知る物なり。天地の御心に残害
んにようもつてのんやうなしのんや。万物の実名なる
必此聖人の語なるを。しらず常に天地のしんなる安き事
をうる。万物の実名なる天地の三才ともなり。(ご生)かく
のごとく孝道の如何ばようくこと記まく迷ひ天地の間常に
照こうして深淵薄氷の危なきみる目の前に起立
て戦に競ごの謹慎い造次顛沛忘ずばるべからず
孔子の門人曾子の既に終らんとするに
足ばひらかれの戦と競ごの詩なりうく謹慎なる事誠せて(ま)
ーに孔夫子のおを被ちまとく多体は毀傷せて(ま)
ざるを、此示されをる敬ひ刑傷は免まとまてく母

んをもつてよのあやまるべしと
逆は仏一正法をおこなふ邪は伐もろ
〳〵教誡の力一なるこのなに経文相書にも多分見
高祖大聖人の御宝前に通答し
良観上人過怜上人等の天地の神冥もる法華経
涅槃経曰
若し善比丘
アツテ見壊
法有ラン不ニ呵
責駈遣
擯出シテ
舉處當ニ
知是人ハ
佛法ノ中
怨也ト云ヘリ
ニ
悪ニ云壊
法ハ邪法
ヲ壊也法ハ
妙法也重
ク論ス
の釈迦仏は捨てまもれと云い天地
おのおの〳〵に言祖天下が諫諍して宣く天下の泰平
釈尊自ら一切衆生の父母仏の如来は善
悪共に捨て説めひ〳〵大慈教主
新しき妻妾と楽しみ古き道隆良観
首仏切る由井の浜にさらし
御仁政有まじと諫めひ〳〵是則順逆
仏一正法を伐もろの道と況や悪獣悪蟲
人に害ばかりをや是ば善
と云べし猫に鼠物ば殺害せよとひ〳〵是善の
何ぞ雑別せざらんや故に釈尊一代五十年の間説給へ
〳〵諸教の次第、華厳阿含方等般若と四十二
年の間説のひ其大綱領の名目ハ四味と云ふ四ッに

ゟらなどでも四ツの内細目いかゞよるにいと詳あれど也
世東都にわんそ大蔵経と改板せさるのひそ文
事表と云書にくんくだくゟ六あげつゝ四味の教に法華涅槃なかくく
部數千四百四十三帋巻數六千三百三十二巻寛永十四年
丑の三月ゟ慶安元年子三月に至て成就をと云へり
何もの経といへども佛説にして毛尊ひまつるなり
くの祖師達の各尋ぬるに依経て宗旨
ゟらまつゞ佛、当てたゞ寛たゞ四十二年の内
のひそ華嚴阿含方等般若の説法ゟゝ流

花経の序ゟる一巻三品の無量義経な来りて今ゟ説
のひそ教とよみびて破して曰最ゟの性欲不同なる種
こに法ゟ説ゟ有ゝ方便の力ゟ説ゟ四十餘
年未顕真實と宣へり此無量義経ゟ後八ケ年の
の経こゝ方便教ゝ脊て無量義経ゟ後八ケ年の
法華経ゟ實経ゝ実大乗経ゟ云ゝは前後の差別を
ゟゝ説ゟ是釈
尊の自説自破ゟ通ゞ誰ゟ
宗の祖師達の佛道ゟ学びゟ釈尊の遺命に背く

四十二年の間の未顕真実の経なりと云い
いまだ一代大乗の法華経と釈尊の入滅後
二千年の間に
像の二千年過ぐる末法のかこるべき
過の唐土日本に出でさせ給いて
しかも方便権教をとかず宗旨を建立
迦仏等の名自己の宗旨を建立
法華経は劣り
法華経

の教と成る諸法衆の仏
云智の元生物
ども悪に毒
多宝如来法華経真実の証明
仏所説皆是真実と是
の未顕真実に相当する御辞
のとのうち違背しる
て能く信ずる人
真高過於大空而無実

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

真實の如くさうたるものといふ
さうて實有りと云ひ
敵對權なきが如く法華經
と云ひ大學の朱熹の序に
叔法華經が專ら天地陰陽
ぬひく天地の間に只一法のみ
全體本來本有の妙法蓮華經
の五字の數字に二經の叔經文
體句一經の四なりと云ひ
ひ唯有一乘法無二亦無三除佛方便說と宣ひく十方佛

云の如く法華經より外に世界の中にも唯二乘の
法華經花經より外に更に一法もなしと云ひ
永涅槃經の中に諸佛所師所謂法也と說き
法華經の内より諸天晝夜常爲法故而衛護之との說
ひく何もの經の中にもせよ法華經
事ぢくく永十方佛土中と說のひきへ寶塔品より
土田の法門として三寶七日のひ時十方の佛土の破也と
實に西方に安養淨土が
時、安養淨土が
此三寶土田の
實に西方に安養
淨土有ラズ
皆經相所
談可考

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

便経の中に説たる南方西方の類にいたるまで是皆の手法華
経と漢語来意と高祖の御号信心と無始に古徳の辞にも伽耶城
んや寂光の外に別に娑婆あるにあらず伽耶と云
そやどの事にて寂光と云ハ則浄土の事と浄と家と汙泥も
浄も心も已身にあるがごとく観門ばかりまでで下地を法報
三部経未顕真実の程なればかりがきたるそのまゝの
あるがごとくさまざまに釈尊真実の法華経の
猶一ぬい経に説く曰今此三界は皆是我有其中

衆生悉是吾子而今此處多諸患難唯我一人能為救護
と説のごとく釈尊自ら天地乾坤の御神実也（尚書に天地の万物の父母）
君と師と親との三徳ある事偏に天帝にこそ法
の御主にて海ましてよの経ごとくなるべきなれば
切る是ばかり捨ても行ずとも大悪あるべき
ひ他邦三逆の者ありもせざるも
あさ海に沈ぞ釋尊の四十余年の方便の無量劣
金言の如く衆生の性欲強盛なるが為に両方には権
世界あり厭離穢土欣求浄土とも仏世界に穢土と

厭い離れて淨土を欣い求めよとなり大法師の輩ども
ぐ辭さず古說に乖き極樂極而生哀と云云極樂佛三界の主
のもの如も如も如も自作是念以何令衆生得入無上道速成就佛身如此の經文を
見ん聞ん者ども一切衆生を愛憐
ん說法し極樂往生安樂國ならんに何ぞ
ん說圖に從ひて安宅を棄て
天涯に有ん佛言にそむきて大
大意大悲の御苦恤と深く感戴
若也云云若し擧なん如の今此三界の父をよみても每自作是念
ざる輩に不知恩の人と云ふ如
唯我一人の御救護と明らん論とぐ
八歲の龍女が成佛と疑難せ
勤め難行苦行積功累德求菩薩道
未曾て止息ん觀ん三千大千世界乃至無有如芥子許非是菩薩
捨身命ん處と云ふ程に捉淨の品にて
今此三界の父をよみても每自作是念釋尊の
大意大悲の御苦恤と深く感戴
若也云云若し擧なん如の今此三界の父の如
ざる輩に不知恩の人と云ふ如
唯我一人の御救護と明らん論とぐ
八歲の龍女が成佛と疑難せ
勤め難行苦行積功累德求菩薩道
未曾て止息ん觀ん三千大千世界乃至無有如芥子許非是菩薩
捨身命ん處と云ふ程に捉淨の品にて

大集經曰一切衆生愛三界苦惱者是如來之
曲禮曰樂不可

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』 請求記号 188.94-I997t
ガラス使用

も哀れに侍らん。捨身命處の事一蹟も目に入れつゝ本門三説
の如来壽量品に事うそ釈尊の久遠のお地に剰妙法蓮
華経を事細説顕ゝめひぬまゝ始覚の尚教即本覚と頓
速門なそ説めひ馨諭ら
の今他三界の提婆品の捨身命處の智積菩薩の吾も
経なかゝそ苔に廣大無邊の功徳利
益ら説くゝ文に捨身の利益ありとみな法華経

の功徳利益にてひみな法花経の功徳利益ありとよみて
なくゝ月の光くらかなる白天なのそゝばりそく
月の光のごとく則弥陀の四十八願の中に唯除五逆誹謗
正法そそく三法ばそゝらの浄もに往生ばゆるさぬと云文ら
ば三法とも浄もの門とそ説く極に咱ても当てなめ
らび法華経ばかひぬまゝ此三法の文ら法華経に奪ひそく
法華経の功徳利益ら多彩し未顕真実の正法
皆べら道理の如く未顕真実の正法
文在ら前義在法華と古人も云しゝ御ら法華経の

壽量品にいたる久遠の如也亦始
元始の古佛と云い世二相ばかりそこ
釈迦牟尼佛と云名号いわゆるかぎり
の古佛と云い高祖の御義の法門御
相承元始の古佛名字宝号ハ何と名付
ぬれハ実ハ始もなく終もなく
提婆品の経文のごとく未曽止息
徳ことごとく尽未来際ゆくえ
ぬる所作の佛事
又今日ハ如来寿量品ハ
無始の古佛所謂天地の御神
も能為救護の利益ハ被らざる
法界の一切衆生日夜十二時唯我一人
ありてと云ものなきゆえに古人も壽量
不知恩の高下と云ハ無慙と
ハ
寿量品にいたる久遠の如也亦始
元始の古佛と云い世二相ばかりそこ
釈迦牟尼佛と云名号いわゆるかぎり
の古佛と云い高祖の御義の法門御
相承元始の古佛名字宝号ハ何と名付
ぬれハ実ハ始もなく終もなく
提婆品の経文のごとく未曽止息
徳ことごとく尽未来際ゆくえ
ぬる所作の佛事
又今日ハ如来寿量品ハ
無始の古佛所謂天地の御神
も能為救護の利益ハ被らざる
法界の一切衆生日夜十二時唯我一人
ありてと云ものなきゆえに古人も壽量
不知恩の高下と云ハ無慙と

かぐら乎前梓女の説を用ふ誘法衆罪作りそこんい諸経の
中より大王たる法華経に於ては梵天帝釈を表し帝后の大経の下に内こと
高祖誠重のくら二人の王といふ意なり天台の遊門法花
の流れ汲むがごとく天の王ば垂迹なりといふ法花
経に諸経の中の王と云へば法花経を誠めのしめ法花
経細字にへば般に叢なるうえこそ仰らるるこの
御警ふ法華経信解品に四大声聞の加葉等法華経の御説
法を聴聞し有がたく信解して曰く迷惑無智にして楽着小
法小法より余前経のまし今日世尊令我等(しゆいしもの)恩惟(のたまう)
余前の諸法戯論(たはこと)の叢(くそ)しめのごとし云へり是をもいふべし
高祖の般に叢ば更へまるがごとし御もらまつり高祖の御
自言にかぎるまのうし相伝書の始終をいふ妙法蓮華経の天
地の徳こそ三実の御経なるまなれ余前の権教なりて三実の法にあら
ず諸経ろくのうに是ば揚ぶそるまのかぎるまのかまでも往昔(近り)法
宗の祖師正の釈尊の思召を述べて法華経をそるる諸

法の最名ばるらも〻流物を一つ二つ挙くるとも
念佛無間の義
唐土も道綽禅師浄土門をひらき
善導に至て安楽集に大集月蔵経の
入路也書く浄土三部経の外いまの悪り閑門をひらく路也塞たる
他に月蔵経に除くるもの不当にもあらんと
るべくなん有ルもせよ未顕実の方便なり何ぞ永に
実とも捨善導如く曰く浄土門に入て法華経等
の成佛に千中無一と云く千人の中に一人も
ありとも云く釈尊

の説のみ法華経に若有聞法有無一不成佛ととく説
のみをき釈尊如く仰ぎ背くかくも法華経を誹謗如せ〻況
や善導が二河白道の譬へと云ふ
なくとく弥日本にくい源空坊法然と天台宗にくむ
の学匠ありが法華経と勧めとそ黒谷の禅室に引籠浄
土門と宗とく三部経伝経と当時当会の弥陀の名号迎
めらもたる選擇集と云ふ二冊の書作り文は十三枚にわ
うちく捨閉閣抛の四字ばもつくん請経の中にも大王たく法華経
を讀誦捨大及実捨ととそよと云ふ閉いとぢつよと云ふ

是開門せしめの為なれば法華入道の法皇妙鳥羽の離宮に
御籠もり書かせ給ひ開き給ひとけ云ふ事を必ずもぬそ事か
うまとそ地ぢいおけうてとふるそう大王たる法華経を海川ぬ
妬深きおけもめと云ひおる〳〵仏誇羅ば仏警諭品に説き曰
若人不信毀謗此経則断一切世間佛種乃至其人命終入阿
鼻獄と説ぬく〳〵阿鼻と云ひ梵語と云ふ天竺の辞也云ふ
て云間地獄と云是則高祖の念仏無間の勇ましき法
然撰擇集を著述して阿鼻の業因を作れ
流石八宗忍〳〵ことそれん来ひ叡山八宗ぬ
宥めん後年に至ふく金剛宝誠抄と云一冊ぬ作り法華経
にうざれひ寶の宝戒なとそ大ぬ背ぞれ念仏ぬ小
咒の法そとぢるの底ぢと云ふ事ぬ求ぢ是ば見えざし
独ひい此出世間第一秘ふ密ぬ撰択の義の文
計ぬて陸獄の業因ぬきんじ無ぬ可考克の曰師ひ計
のそく弟子ぶ系のそ師の義ぬ背ぬ弟子ぬ
最期ぬ従ふ陸とふく可忘
禅天魔の儀
聞仏決疑経ぬ釈尊の説のひ中ぬ
釈尊花を招ふ加葉ぬ

授けめしの破顔微笑と云ふ加葉尊者完示と等く
佛の印可ばかりにて教外別傳不立文
字と云ふ如来一代の教法ことごとく
工夫禅家に傳ふるにあらず達磨已前
ととゝへ祖仏決然と云ひ佛説あるに
作べからず佛説ありとも未顕真実の権なれば
使なり何ぞ一切経やあるべからん
広の語にかゝづらふ唐土の南泉と云
ふ釈尊一代の教と権実ともに悪く方便なれ

月ばかり指のごとしと云へり佛の誕日を
もう祝て禅宗の寺院にて葬式赤飯
舎の器に生飯を取て鬼神に与ふる
誕日祝ふて追善回向なかれ是何の
ぞや況や来三世
あらず空見と云ふ外の仏の僻見にして
ふ天地と日月辰星南斗北辰
人ゆう鳥獣草木五穀ゆう何ぞ一切として天地の
恩徳ならざるや是高祖の所謂天魔の破言にあら
ずして何ぞ聖人の孝弟忠信仁義の道とおもへるか

天下の人々勧善懲悪の為也況や佛法一切
衆生を教化して佛道に入しむ(る)に非ざる法なし
たゞ心是則佛祖のお言ものと思ひ(ふ)みいゝたゝ
見性成佛を(と)思ひ(ふ)ばかりを吾が檀越の輩に一句偈の法門
を説て諭すをせず佛祖のお言に背ける天魔の破言
いけんで免るまんや

真言亡国の義

唐土善無畏三蔵一行阿闍梨等ご(と)の謗法の(と)でも
仏説に是なおく(く)申ものこそ(と)いふ云ふ集ば建立をもて(て)弘法大
師ぺ(へ)彼弘法法華経を誹謗ごく(く)華厳経大日経に比をも(ふ)ば第
三にも下も経文い(に)載ず論ごとくり釈尊い法華経ゞ諸教ゞ中の王也
寂寥第一也と宣ひ多宝如来い法華経の証明して真実(と)
宣ふたるをも弘法ゞ第一(に)仏第三と下し真実が戯論(と)云釈
尊捨て弘法ゞ捨る(ふ)ゝ大日経ゞ釈迦の説に
かゝん大日如来の御説ごとく大日と釈迦とは為用ゞ釈尊、
唯我一人能為救護と申説ひ(ふ)よを二佛併用る故に
高祖の破言に天二ゝの日なく地二の主なるがごとく是(に)明らか
なり(と)宣へり

吾高祖大聖の報恩勧文書妙法蓮華経の五字を説く
人身體ヲ造ると言ふ信ずるも天地乾坤陰陽の神灵
なる妙法蓮華経の功徳にあらざれば吾一身と造
作し衣食住の三ツハ云もおろそか也 予が日夜十二の積
くる年し歳こうくる大恩ばかりなるべし 慈
章ふる愛ニを親而愛ル他人者謂之特徳不敬セ甚親而
敬他人者謂之悖禮と云り妙法蓮華経ハ體ノ親也

釈尊ハ用ノ親也ともうすと愛を以敬をば
他方無縁の大日法施なども愛敬なるハ悖徳悖禮の人なり
子等知なる重罪なり 法施の警諭品勧發品ヲ
よく心得ハ説のごとく信謹ク行ずる
等徳と用の地水火風空ホの二ツと吾一身の色心ハ
吾このうたゞし心ハ則吾心ニ 遠ざるよの如 甚深なる體用二ツの神霊
肯ずる時ハ再生の時六根具足
まし経文ハ當然の理なれば
大城と云ク経文の通り間断なく苦ろ入べきなり

可恐事共ゝ仲尼の語に罪伊天に祷る時ハ祈る所なし
ゝ乞句ゝ法華ゝし天ゝ云ゝ何物ぞ所謂妙法蓮華経也此
書ゝ始に筆ゝるゝゝ水火金云の教ゝ天の五帝ゝゝ孔子
の語ゝ見へたまゝ罪伊天に祷る時ハ祈る所なし宣ひ
ゝ罪ゝ天の五帝に始る所ゝ恩ゝ見へ亦武の孔子の病重ゝゝ時ハ門人ゝ始の所ゝ
神祇ゝ祈ゝと云ゝゝ仍も此ゝ祈ゝ所なし宣ひゝ五行ゝ上下の神祇ゝ祈ゝ所
謂天地の神霊妙法蓮華経ゝ孔子つゝぶ時の如ゝ妙法ゝ
祈りのそゝ唱へのそゝ称ゝ被ゝ加ゝ自他ゝ同ゝ證ゝ仏果ゝ
法神妙の徳ゝ心ゝ当ゝ信ゝ天通ゝ如ゝ
孔子ゝ後五百歳の運にうゝ
蓮華経ゝ
人ゝ
天地ゝ
天道ゝ
ゝのいゝ
多紀ゝ奉
天地の間の衆生ゝ悪ゝ

う経文の如く迷い貴賤皆卑若差別しとくべし悪く
天帝の御子として皆天帝の御
血肉を受給がごとんや仏故に吾が高祖の女尊抄といへ
う御書に曰妙覚の釈尊は我等が血肉し因果の功徳骨
髄にいたるまで宣うう経文是なり相又曰
多見随善功徳品曰即生胎生乃至無足二足
四足多足如是等の花報生数無量
時に非情の草木石も亦数の如く成仏す
尚書に天地は萬物父母と再三重出

さだめし事別皆是天帝より御子の種類成仏うたがふに法
華経見宝塔品に曰仏経難持若書て持有我則歓喜ス諸
仏又然是真実仏子と説のごとく志の仏子とそ則天帝の
眷子也と云事なし弟にも等しく天地の間の衆生悪
是吾が子なりと説のごとく父母の御恩も平等にこそ深
もてども御心に叶ふる孝行のふかき浅きすくなき不孝のみぞ多
迷ぐとも寿量品に仏なほきそく曰父作是念彼る可愍説のひ
涅槃経に然於病者心則偏重説のひとしなく七子の父母も
如是病者に然病者ろ尚不使重之の経文也病者

と云い誇法罪の人なりと高祖の御書にも鳥の啼くも海
下ると日蓮不信浅しと宣ひしも是みな不孝なり
なれば尚不使に云ふ大慈大悲の深事は忘るべからず孝の事也
の戒體即身成佛義と云御書に世界皆釈尊の御舎利
也舎利と梵語也家にくい身と云ふ事なり
一切の衆生尽く釈尊の御子にたるゆへに
たるゆへ法華経の薬王品は裸有の衣は得んも
寒有の火は得たるも商主は得んも子母をねたるも
飢ゆるたるも貧有の宝となるたるも皆

妙法蓮華経の功徳利益なくして説のごとき高祖の御書にも亦
そるゆへ食と成渇せるゆへ水と成病を治するゆへ薬と成
書と成く無窮の徳用を施すゆへ宝と宣ひしく経文
と祖書こいさゝか違ふ事なし皆是釈の妙法蓮華経の
地水火風空の五大も亦木火金水の五行も皆
種と植との用の利益施すゆへ妙法蓮華経の體也
也地水火風空の五大も木火土金水の五行に用ゐ事は是ぬ高
祖の諸法実相抄と云御書に釈迦多宝の二佛と云ふ用の佛
なり妙法蓮華経社なれば佛にくいかなり云ふ事なし宣ひ亦

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

書にい能の妙法蓮華経と〳〵假に二佛と顯はし〳〵用の利益を
現ずるの文を指〳〵て若有聞法〳〵悉能勤又所書の
妙法蓮華経の五字と云ふ〳〵人の身體を指〳〵宣ひ又阿佛
房御書にい阿佛上人の一身い地水火風空の五大也は五大い題目
の五字と指〳〵宣ふい以つて云に是い躰即用〳〵躰用
不二なるの義を顯はしの則倶躰倶用の法門本化別頭自在と
妙談也の例もなき也妙法五字に於ては五大種の配當せんとなら
ば妙い天也〔この通路絵空事也〕法い地也蓮い水也華い火也経い風也〔高祖の御
義なり〕経と云い天地の経三世常恒なり〔経と云と宣ふ一念三千の
言語音声と経と云と宣ふ如く五大を包含して風に書るなり惣而
惣報の家なり同く地なり風空と指〳〵本大土重水なる
神なり通ずる〳〵如来神力品の文に於ては妙法蓮華経と捨〳〵用ひさ
せ給ふ根なり等のごく水中の月に同しく地水火風空の
假用の上に則天地生との事を断滅をなる〳〵法華経の譬諭
品も則断一切世間佛種と〳〵一切世間の佛の種をそなへ説
のひ〳〵是也佛の種と云い成佛の種と云ふい則天
地生との事なるぞや改に妙法と信し當れば天地生との
事が資け給るが故に風雨時に〳〵ふる〳〵の歌と妙法に
歌と天地生との事ぞ断滅とるゝ如く風雨

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』 請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

時代ごとに天災地害はもちろん五穀豊熟および疾病流行するに高祖の立正安国論のごとく佛語として現證ある道理のみならず筆舌もおよばざる至寒の炭火酷暑の扇風一両中の傘蓋(サン)衣食住の大なる種々の食物病中の薬品況や衣食住の大なるものいうもさらなり日夜不具のものいうもさらなり終に臨じのゆくえ(臨終)にいたるまで(十二時)離れざるは依怙と施しの利益なり所謂父母の恩師檀那の立佛法蓮華経如来の難行苦行積功累徳の広大の御恩人

(舌)
みじく筆端舌(舌)にてのべがたく古書に盤中餐粒(盤中餐粒)皆辛苦と云ふ一民の辛苦だに云ふにおよばず妙法蓮華経如来の陰徳もれなせこの素量をおもうに粒ごとに感のひくこと辛苦一のごとく云ふばかりなし夫覆(フク)て(載)の(之)徳也載く遺事なき地の徳と(礼記中庸篇曰天の所覆地之所載日月所照霜露所隊凡有血気者莫不尊親故曰配天云云)天地の大徳に恩をしらざれば捨(ステ)てさだ掃(ハラ)寄(ヨセ)濁水(メミヅ)の不浄とおもうに国家の用をなすこと(化育)の徳(ほどこし)を資(タスケ)給(タマフ)事をおもわざるがごとし(帝曰唯天下至誠為能盡(ツクス)其性(ノ)能尽人性則能尽物性能尽物性則可以賛天地之化育可以賛天地之化育云云)故に国家の用者(モノ)のおよぶ大木(ボク)をも用(モチ)ゐる事(コト)

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t
ガラス使用

劉はぐ若無益の事をすゐ一枝一葉よりにも猥りに
えべからざるあつらの法(ホウ)師妻たる化育の徳をそむかず昔(ムカシ)
賢善男子(カシコキヲノコ)の如き日水のひかり神祇(カミ)の冥助(ミヤウガ)侍(マ)ち信(マコト)を抱(イダ)くの
せずば師説(シセツ)に異(コト)なく教誡(ヲシヘイマシメ)のひかり古記(フルキ)に見えそう
生(ウマ)るゝ前(サキ)の一瞬(ヒトマバタキ)の間(アヒダ)心(ココロ)をそそぐべし天地の神冥いたよ
ゐ給(タマ)ふべし痛(イタ)たる間(アヒダ)心(ココロ)をそそぐべし天地の神冥いたよ
ゐ給(タマ)ふべし自我偈(ジガケ)の終(ヲハリ)の佛(ホトケ)說(トキ)宣(タマ)う毎自(ツネニ)作是念(サヘカクオモヘ)と以何(ユエニ)令衆生(ヲシテ)

浮入(フニュウ)無上道(ムジヤウダウ)速成就佛身(スミヤカニジヤウジュブツシン)と何(イカ)もの道(ミチ)の
らるゝ妙法(ミヤウホウ)を信(マコト)ずの妙法(ミヤウホウ)を唱(トナ)へめく生佛一躰(シヤウブツイツタイ)と云(イ)く
天地人の寶(タカラ)の三才(サンサイ)の如(ゴト)く入(イ)らん大慈大悲(ダイジダイヒ)の元始(ハジメ)の終(ヲハリ)
断(タヘ)ずきよく毎自作是念(ツネニジサヘカクオモヘ)と說(トク)ふよく浄土門(ジヤウドモン)と阿弥陀佛(アミダブツ)の
同位(ドウヰ)のそのうみいつゞ法藏比丘(ホウザウビク)と云(イ)しの的設(マヲケ)我得佛(ワレブツヲエ)と云(イ)く宿願(シユクグワン)
のとく我名(ワガナ)を唱(トナ)へたく有(ア)ん我浄土(ワガジヤウド)に往生(オウジヤウ)せんをべく我名(ワガナ)を
唱(トナ)へぐん去(サ)れば往生(オウジヤウ)せんりやうぐそれの倫頭阿鼻(リンヅアビ)の苦(クルシミ)
いつぐ(ママ)と雖行苦行(ギヤウクギヤウ)のいく刹那(セツナ)の唯我一
人の天恩(テンオン)と思(オモ)ふ感歎(カンタン)なるまで菊水叶尾(キクスヰカナヲ)も為(タメ)

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』 請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

せんなどの人々あるに天道の働(はたらき)衣食住の奢(ヲゴリ)美を極め然(そ)
并(そびよの)の器物に費(ついや)すこと(省)節倹質素の道に叶(かな)ふ
法華経の勧発品に是人ヤ欲知仏
倹素の道、天地のあるとうくる処と
倉廩に貯(たくわ)へ四家の通用(つかひ)
豊く親族の困窮(コマ)かくうえて隣郷
斉(ヒトシ)不仁の甚きこれのこと天地の罪人とも
三才のわけにかなふ道理(ことわり)
陛下の私なき御心(みこころ)法(のり)
の如(ごと)く

よ発(おこ)る処ばんや山のごとく我私なる
情(こころ)天地の如き御恩を
谷(たに)の如き無尽(つきせ)の慈(めぐみ)
賦(あたへ)天地の徳(めぐみ)
徳の際涯(きわ)なきが如く
則(すなわち)名(な)を後(のち)に遺(のこ)す未来際(きわ)
いろ祖(おや)うみ(生)のごとく化育の徳(めぐみ)
やぬべくおぼゆ(覚)
君上国家の恩父母祖先の徳(めぐみ)

唱くはう〻ア侍〳〵く地遍の恩徳
の恩父母祖先の徳徳号びく南無妙法蓮華経〳〵唱くはう
天下泰平国家安全風雨随(隨)時百穀豊饒萬民快樂(樂)な
さしめたまへと丹誠に祈うはう〳〵ば唱題の声かすかに
ひゞく天地鬼神のんべ冥合〳〵十方法界と周遍するが
故に誇法罪の有ぶ者の耳にぬも〳〵呼吸に入ぬもの
く〳〵佛識のん田〳〵云〳〵胸中〳〵種〳〵是則法花
経に縁ゆもんとはなるよう廣宣流布の基本と成本
化別頭の妙談目受傳教尊高祖の悲願にく吾が宗門の
綱格也は理ゆゑ法能〳〵説云〳〵高各異業と
為ゝば已〳〵が白〳〵の所作いこゝろ是妙法蓮華経の力用と
天地化育の徳に資ケ奉るのもの是妙法蓮華経の力用と
妙法五字ば唱くはう〳〵天地の徳に冥合
して法界に弥布(ふ)〳〵利を物(経曰雖有魔及魔民皆護佛法ト云ニ正ト成魔ニ)〳〵守
護と成うおのづく〳〵感応に成〳〵萬豊に成〳〵
寿命長遠に福徳自然に集ゝ〳〵ぬ事疑なのゝ
産業と成〳〵高祖大聖の如説修行折伏破権門(理の金言なれバ権教権門ノ)葦ゝ無二一

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』 請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

人貴尊ミ（釈尊）法皇の家ニ生レ諸乗一佛乗ニ成テ妙法獨リ
繁昌シ萬民一同ニ南無妙法蓮華経ト唱ヘ奉ル風枝ヲ
鳴サズ雨塊ノ不砕ニ竟ニ義農代ト成リ今生ニハ不肖災難ヲ攘長
生ノ術ヲ得ン法ニ不老不死ノ理リ顕レ現世安穏證文疑不可
有宣ヒ是也抑又妙法ヲ信ずる事平生的ニ心得べき事
扨一巻並ニ十界互具の大曼荼羅ヲ
図ず高祖富木日常師へ送ラルル高祖ヨリ常師ヘ
佛滅後二千二百二十餘年の間一閻浮提の内未曾有之大曼荼
羅ヲ末代の為ニ弘通ス云々
（観心本尊抄曰如是本尊在世四十餘年已前
無之八年之間只限八品ニト云々）

説のごとく時本門八品の躰相ヲ末代の
従地涌出品ヨリ嘱累品マテ本地
上行等列ニ坐ヲ聞ノ事ナリ
（本門八品ト云）
是ヲ書ヲよのもの
高祖の日女御前抄ニ
日蓮イカナル不思議ニテヤ候テン龍樹天親等天台妙楽等ダニ
モ顕シ玉ハザル大曼荼羅ヲ末法二百余年ノ比法華弘通の旗シル
シトシテ奉顕也是全ク日蓮が自作ニアラズ多宝ノ塔中大牟尼尊
分身ノ諸佛スリタギタル本尊也サレバ首題ノ五字中央ニ懸リ
萬法具足之金躰ヲ顕レモノ四大王ハ宝塔ノ四方ニ坐シ釈迦多宝（一陽一陰）本化四
菩薩坐ヲ並ベ火徳上行菩薩風徳無邊行水徳浄行菩薩地徳安立行（ホツ）中略普賢文殊等
舎利弗目連等坐ヲ屈シ日天月天第六天魔王龍王阿

脩羅王其外不動愛染ハ南北ノ二方。陣ヲ取リ悪逆ノ達多愚癡ノ龍王一坐ヲ張リ三千世界人壽命ヲ奪フ悪鬼ヲル鬼子母神十羅刹女等加之日本國ノ守護神ヲル天照太神八幡大菩天神地神七代地神五代ノ神祇等ノ餘ノ神列具餘ノ用ノ神豈モルベケンヤ宝塔品ヨリ接諸大衆皆在虚空ト云ヒ此等ノ佛菩薩大聖等惣而序品列坐ノ二界八番ノ雑衆等又モレズ此御本尊ノ中ニ住シ玉フ妙法五字ノ光明ニ熨サレテ本有尊形ト成是ヲ本尊トハ申也已上今挙ル処ノ本尊ハ十界互具ノ一念三千ノ大本尊トゾ云ク法究竟信者ノ的々相承ノ秘奥也忽ニハ信ジ難キ事ニテ候ヘ共経文ヲ能々拝見シ給フベク候ヘ夫レ天地法界ノ陰陽五行ハ妙法蓮華経ノ五字ニ具ワレリ経ニ云ク妙法蓮華経ノ五字ヲ受持スル者ハ譬ヘバ大樹ノ根ニ水ヲ灌ガ枝葉ニ花果ノ繁ルガ如シト云ク故ニ妙法蓮華経ノ全体ヨリ起ル事ナレバ豈天地ノ如ニ也ヌベシヤ則妙法蓮華経ノ五字ヲ以テ本師トスルノ釈尊ノ八百萬ノ神々ヲシテ妙法五字ヲ守護セシムル故ニ妙法蓮華経ノ五字ヲ持ツ者ハ譬ヘバ大樹ノ根ニ水ヲ灌ガ枝葉ニ花果ノ繁ルガ如シト云ク故ニ

法門と云也繁長なるが故に識者に譏らる今妙法蓮
華経を以て転法輪なす事は神社仏閣にはなん愚夫愚婦の輩
といへども妙法蓮華経の尊号を唱へ妙法蓮華経の神呪に祈るが故に佛神則法味を享ぬ
法音洞朗歓喜の眉を開きて妙法の誓約に感
属累品曰如世尊勅当奉行ト諸佛并諸神等誓願ヲ立玉ヒシ也 應験と行布丹誠の信力よりし
のいく祈る事の諸願も成就せざる事を感應冥合と云
ひ故に妙法の力用を以て早天に雨を祈るに一雨所潤の文満
耳露法雨の文の如く妙法の力用を以て除雷祈るに雲雷鼓
ライ

剰へ雹雷應時得消散の文あり妙法の力用を以て除病延寿祈
るに忽ち病則消滅不老不死の文あり妙法の力用を以て怨敵を退る
に諸難怨敵皆悉摧滅衆怨悉退敬の文の如く妙法の力用を以て死
に安ば除ふ今百由旬内無諸衰患の文皆妙法の力用を以て死
を免れ行るゝ所皆是心大歓喜の諸願成就の文あり是等の諸願
満足せしめ給ふ事疑ひなき妙法不思議の力にて普門品の念彼観音
力、如き是歓音カニアラズ則妙法カ、ごとく百福荘厳なる心如是の妙法蓮華経なるが故に所需必
脱ること疾ケ海ノ可信
ゝる所悪必除高祖の聖愚問答書に曰唯南無妙法蓮華経

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

ぐるも唱へ奉ラバ滅をぬ罪や有べくも未ぬ福や有べく仰ぐ
信受をべきなし遊ぎ心に妙法と信ぎれば天地化育の徳に
ぐ口に妙法と唱ふるの乾坤造化の恩に酬ふ只應験の有無と利生の
速疾ト信力の強ト弱ト罪障の深ト浅ト亦祈るる是ト非ト云ふ
(謗ニ一司信)實に是レ消災得福ノ奥法化育贊輔ノ妙道鎮護國
家ノ明鑑立教垂範ノ軌轍萬民快樂ノ基本也然以
吾ガ高祖日蓮大聖尊の御本地を弘るなれば必ず上行等
御再身ぐぐ法華経の本門従地涌出品より始ぐ涌現しめし
六萬の恒首を多大薩埵ぐし南無妙法蓮華経と釈尊ぐ
寄為ニ肩

唱導之師ト称ぐるも地水火風の四大尊の中ぐれ火徳
寄ニ一首ぐるなりぐ一名上行ぐ涌出ぐめぐ宣ぐるの佛滅
後正像二千餘年の間いまだ一人も唱へ弘ざれ妙法蓮華経
の五字を佛勅なる蒙りぐ唱導の師ぐぐ後五百歳
の時に感ぐぐ吾ガ
大日本に日蓮ト名乗ぐるの高祖ぐぐ火徳一名上行菩
薩の御再身なるを顕ぐぐ乙御前書に曰ク日蓮
ガ云ク末の後末令ぐば法華経を(ヲ)身軽法重死身弘法ト
云ふ身軽けれ共人ぐ信ぜ(ヲ)も打ぜ(ヲ)も法ぐ重ければ必ず弘ぐべ

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

法花弘通ノ初メヨリ屍ヲ曝ス可キ由ヲ存ジ生ヲ惜ムベシ屍利生アルナラバ今ノ八幡大井ノ祝ノ如ク二祝ハルベシト仰セ置レシニ未ノ世露須ノ遠ク迷ヒ給ハン事ヲ歎キ給ヒ釈尊ノ未記多宝佛ノ讃ノ高祖勧持品ノ偈ノ中ニモ高祖勧持品ノ偈ノ中ニモ

ノビ〳〵事ハ普ノ世ノ初ノ事ナレバ今ノ末ニ二ニ挙ゲ之ヲ

国師一蛇流ノ以前ノ日蓮未ダ顕ハサヌ一ノ二字ヲ讀ズ口ニハヨミ給ヘドモ未ダ御身ニヨミ給ヘ

ラレザル一ノ法門ノ三澤殿書ヨリ可ナリ佐渡以後ノ法門ト云ヒ仰セ弥高ノ鑽之弥固ノ臨之

弥深ノ偉哉妙法蓮華経ノ為徳ヤ舒之ヲ周沿於天地巻之ヲ蔵

密ト古人皆曰ク充於天地則天地不廣入於芥子則芥子不狹

實ニ是言語道断心行所滅之大法也ト文在ス前義在法華

ト云ヘル亦前後ノ中ニモ於権ニ説レル文ハ多ケレドモ義ハ唯法花

経ノ実ノ中ノ大海ニ衆流ヲ納ルガ如シ

又古語ノ如ク何ヲ歎キ何ヲ悲ムノ眼ヲ以テ孔子ノ無カレ

吾ガ朝ノ和歌ノ道モ又諸ノ二中ノ一ノ道トシテ

行モ思ヒモ歌モ皆ノ妙法蓮華経ノ義ヘツヅマル云

本朝ノ法師功徳品ニ曰ク諸所説法ノ随具義趣皆与実相

不相違背若說（周公孔子ノ典也）俗間ノ経書治世語言資生業等（ヲ）皆順（ゼン）（ニ）正法（正法則法華経也）高祖大聖人他受用御書左帝（門）返事ニ曰一切世間治生産業皆是実相不違背（ト）云云（本覚法門ノ本有ノ如来ト（ハ）吾ガ高祖ノ御義本有無作之三身如来ト宣ヘリ）亦兵家軍学ノ書ニ（竹原傳書）軍陣故実ノ中ニ（則法花経自我偈ノ文無上ノ（ト）字ヲ帝（リ）トカヘタリ）有実検ノ作法アリ大将敵ノ首ヲ実検ノ時ハ文ニ曰得入無上道速成就佛身（ト）云云（是ハ竹原ノ人々ハ皆知リヌベシ）是皆妙法蓮華経ノ義ヲ顕ス事ガ第一ノ孔子ノ教誡ヲ一証トスル（是ハ竹原ノ極秘也）わくらばにも心ざしなる事ならば高祖ノ名高ク宗門ノ誇上人亦（ヤ）

仏の法門ハ必ず（シ）も心ざし（ヲ）ふかく（ク）信ずる（ル）人（ノ）ばかり（ヲ）ひろめ（ム）（ル）ものにあらず（ズ）（ト）秘（ヒソカ）（ニ）説（キ）ても（モ）ひろまる（ル）ものなり（ト）高祖の深義の御書（ヲ）ば（ハ）世に（ニ）教主（ノ）ごとく（ク）（ヤ）（ガテン）（ソリ）（トモガラ）凡俗の徒（ヤカラ）（ト）いへども（ドモ）（ヲ）（ニ）（ハ）（ノ）（ヘ）（ト）（モ

人のうく是ハ也通高祖和主の易行が中ゝ易行ゝいかゞにも
〳〵是難行道の書〳〵ふくのうゝ〳〵ゝ
天地生〳〵の大恩ゝ報ずるのうゝ勿〳〵ゝ
ゝなくゝ煩悩業苦ゝ浪ふゝ大罪いっぱ
ゆんや無ふの所謂長寿のために枝ゝ折るのまゝ
ゝるゝ也而釈迦一代〳〵天地人
の三才ゝふ妙法の徳ゝ一切衆生ゝ
ゝるゝ也世人ゝくゝ理ゝと已ゝまゝ
ゝとう不肖の身にゝく聖漢の文史にふくゝ
ゝ

ゝうゝ法門ゝ研究
ゝ也ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

法脉(ミャク)ともに末の世をしるかぐく家名連綿(レンメン)として万歳の
君家に仕(ツカ)へまつらん事を願(ネガ)ひ奉(タテマツ)りて経文祖判の仕場(シバ)
拙(セツ)なくしるし侍(ハベ)る図画をかえりみず頻(シキリ)に百拝(ヒャクハイ)して南無妙法蓮華経(ナムミョウホウレンゲキョウ)と唱(トナ)へ奉(タテマツ)り謹而識(ツツシンデシル)す
くてこそ志(ココロザシ)うくとこそ云

天地妙法感應録 終

世尊(セソン)のことさら新(アラタ)に御(ゴ)宇(ウ)の懇志(コンシ)の需(モトメ)に応(オウ)じ給(タマ)ふ深利(シンリ)目
の当(アタ)りきらくと夢(ユメ)のごとく御利益(ゴリヤク)の現証(ゲンショウ)は佛(ホトケ)の金言(コンゲン)祖師(ソシ)の妙判
その文証(モンショウ)引合(ヒキアワ)せらるゝ小冊(ショウサツ)よりも題(ダイ)
号(ゴウ)名付(ナヅケ)等(トウ)の処(トコロ)迄(マデ)も允眼(インガン)も通(トオ)るべくと天地妙法感應録
と云(イウ)ばいそぐべき事(コト)なれば未来(ミライ)論(ロン)ぜん人(ヒト)参考(サンコウ)の為(タメ)
化飛(ケヒ)の自(ジ)在(ザイ)の不可思議(フカシギ)まで(マデ)もとらく等(トウ)
らん 経(キョウ)佛(ブツ)僧(ソウ)の況(イワン)や仙(セン)術(ジュツ)外道(ゲドウ)の術(ジュツ)迄(マデ)も名高(ナダカ)き祖(ソ)の跡(アト)
為(タメ)に書(カ)に曰(イハ)く彼(カノ)阿竭多仙人(アカッタセンニン)八十二年(ハチジュウニネン)の間(アイダ)恒河(ゴウガ)の水(ミズ)を耳(ミミ)にた
為(タメ)へ(ヲ)者(モノ)莵仙人(トセンニン)は四大海(シダイカイ)を一口(ヒトクチ)の中(ウチ)に吸(スヒ)てホシ拘留外道(クルゲドウ)は八百年(ハッピャクネン)ノ

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t　ガラス使用

間石ナルヲ至彼ノ変化ヲ信ゼハ即チ外道ヲ信ズヘシト已上祖書ノ大意カクノ如ク見ん人ハ其ノ理ヲ

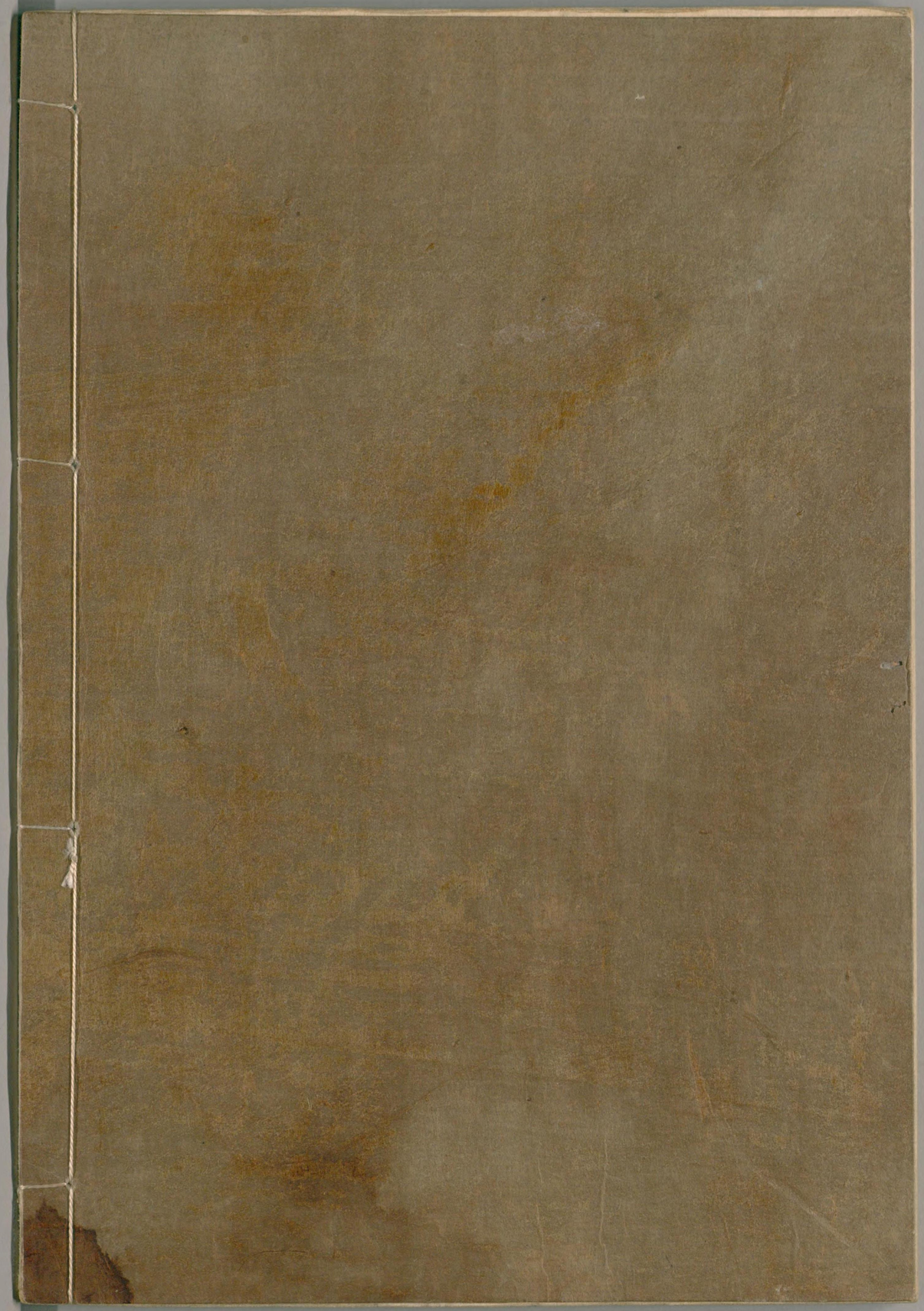
天保二年辛卯初秋日　雑時七十二歳以衰眼自書

東肥熊府之産　伊津野綺源直秀謹撰

明治三庚午初夏日再拝謹写

梶原直次郎平景朋

国立国会図書館　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t　ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『天地妙法感応録』　請求記号 188.94-I997t

ガラス使用